



ほだかの里だより



－大高歴史の会会報－ 第 60 号

(ひかみちゃん)

(ほだかくん)

令和 8 年(2026) 1 月発行 (冬号)

「ひかみちゃん」「ほだかくん」は、大高在住のイラストレーター大橋由起子さん作成の「大高歴史の会」のキャラクターです。大高は、昔々、「火上(ヒミ)の里」、または、「火高(ヒダカ)の里」と呼ばれていました。

第 60 号 目 次

東海大豪雨による大高の被害と対策	杉江一郎	P1～3
大高のできごとあれこれ・大高の行事予定		P 4
大高歴史の会のあゆみ		P 5
大高の伝統行事 第 5 回 太々神楽	山口初宏	… P 6

東海大豪雨による大高の被害と対策

杉江 一郎

はじめまして。2年半ほど前から大高歴史の会に入会しています。実家は中之郷地区の大高駅西で今は大高北小学校正門前の常滑街道沿いで育ちました。母親の在所は紺屋町で祖母は新町が在所という純粋な大高人です。このあたりは周りの道路(名和街道)より一段低くなっていて区境の河川(天白川 扇川)が溢れ決壊したときに緩衝地帯となっていたようです。護岸も葦や蒲などが茂り堤防は土を盛っただけの堤(つつみ)でした。

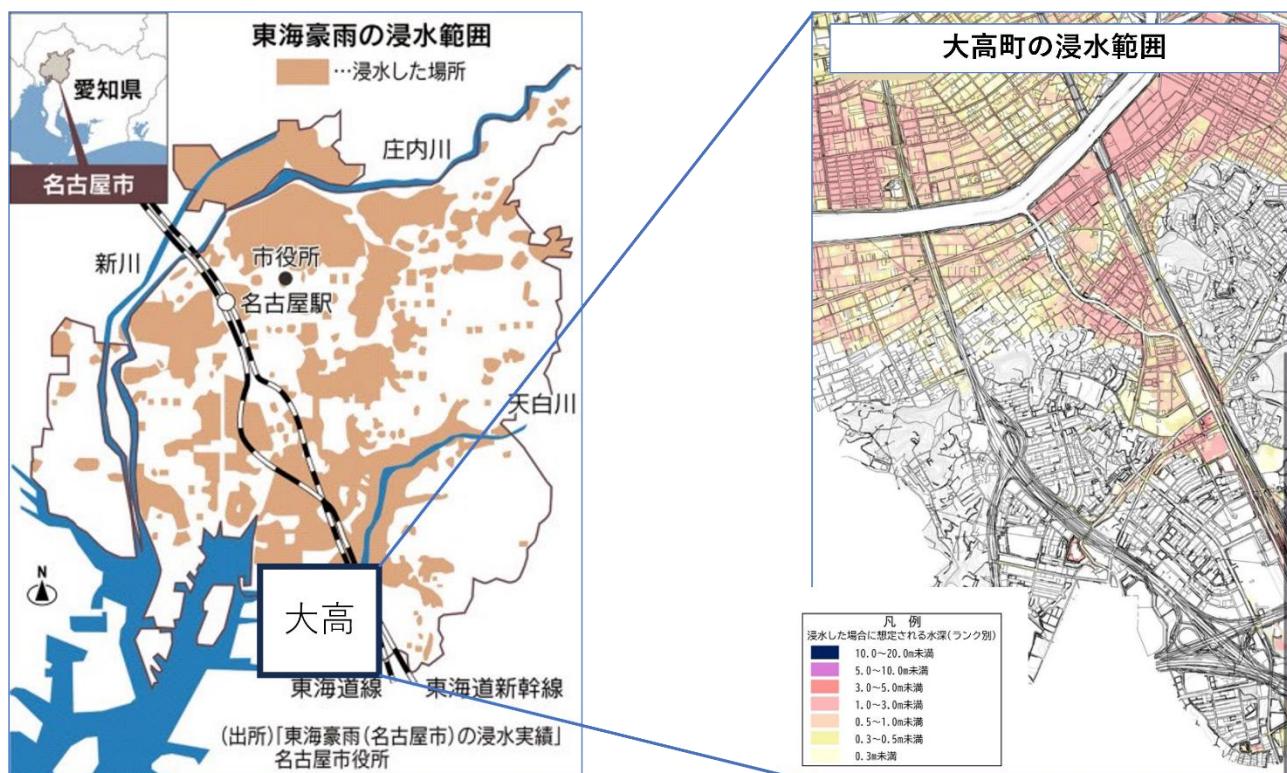
さて水害といえば伊勢湾台風ですが私は昭和 38 年(1963)卯年に生まれているので 最大の水害は平成 12 年(西暦 2000 年)の東海豪雨が記憶に残る一番大きな出来事でした。名古屋市の被害でみると新川・庄内川が一番ひどく広範囲に浸水して 次に天白川流域の被害が大きかったようです。当時の報道では国道一号線汐田交差点の中央発條本社工場が水没して トヨタ自動車の工場が一斉に停止したニュースが何度も繰り返して放送されていました。



東海豪雨の被害を物語る写真

大高の浸水被害を見てみましょう。汐田ポンプ所と鶴田ポンプ所が能力を超えた為に運転停止し、行き場を失った汚水はマンホールの蓋を押し上げ、そこからどんどん雨水が溢れてまわりの道路を次々に水没していきました。伏線で汐田ポンプ所には滝の水からそれまで浸透していた雨水が流れ込み、鶴田ポンプ所には大高台・大高南の浸透していた雨水が一気に流れ込んだのがポンプ所の許容範囲を超えた原因のようです。当時2階から見ていたのですが吹き上がる汚水マンホールからの溢れる様子はまるで噴水のようで今でも鮮明に覚えています。翌日から浸水した水は徐々にひくのですが、クルマは裏に非

難させて無事でしたが産業道路沿いの工場から流れてきたと思われる油脂やダンボール、なかでも一番多かった漂流物はプラスチックの箱。当時お弁当を作る工場が産業道路沿いにあったのですが、その工場が水没して空のお弁当箱が大量に流れ着いていました。もう景色は一変していました。家の前の道はもちろん水没していましたブロック塀に4段強(約90cm)まで浸かった跡がついていました。家の土台を道のGLから1m上げていたので浸水は防げましたが、漂流物は軽トラ2台分くらいの量が揚がっていました。



ここで東海豪雨を数字で振り返ってみます。

*平成 12 年 9 月 11~12 日にかけて東海地方を襲った集中豪雨で

1 時間あたりの降水量 97,0 mm

24 時間降水量 534,5 mm

*名古屋市としては伊勢湾台風以来の被害で

緑区の人的被害は合計 12 名

死亡 1 名 重傷者 5 名

軽傷者 6 名 行方不明 0 名

この数字は名古屋市で 2 番目の多さとなりました。

当時の名古屋市はこの豪雨被害を踏まえて

河川激甚災害対策として

新川区間 21,8km

庄内川区間 16,0km

天白川区間 7,6km

の 3ヶ所を指定しました。

大高に直接かかる天白川について 緑土木事務所や市役所河川管理課にて少し掘り下げて調査したので書いておきます。汐田貯留管と汐田調節池と緑小学校調節池と大高調節池です。大高に関係するのは汐田調節池（汐田貯留管）で産業道路下に直径 3m の雨水地下貯水槽（6000m³）と、もうひとつは大高調節池で川向新道地下に貯水槽を埋めているそうです。

あの日みんなの家やクルマに水害の被害はありましたか？ 大丈夫でしたか？ （完）



大高において補強された水害対策

<大高のできごと あれこれ>

「大高まつり」 10月5日（日）本楽

曇天の下、大高祭り執り行われた。午前中は、“ええ猩々”が先導して辻秋葉社～津島社～天神～大浜街道～八幡社まで巡行したが午後からは雨の心配もあり“ええ猩々”的出番はなしで辻秋葉社～高見～新町～氷上姫子神社、復路は辻秋葉社まで戻り解散。沿道や氷上姫子神社の境内は多くの見物客でごった返した。



氷上姫子神社

「みどり・シティ・フェスティバル2025」

10月25日（土）

青空の下、通称、区民まつりが大高緑地にて開催され大勢の人出であった。大高地域観光推進協議会も出店し物販した。



大高観光推進協議会 ブース

「コミセン祭り」 11月15、16日（土、日）

大高地域コミセン祭りが2日間に渡り行われた。1階のステージでは演劇、演奏、合唱、ダンス、ブラックシアター等の日頃の活動成果が発表され、2階の各室では絵手紙、手編み竹細工、書学等の展示が行われた。大高歴史の会・大高地域観光推進協議会のコーナーでは“2010年なごやまつりの織田信長”が着装した装束を目玉に昔の写真やまちかど案内板…等が展示され大好評だった。



織田信長の装束と陣幕

「サムライ・ニンジャ フェスティバル2025」

11月30日（日）10時～

愛知県主催の秋の恒例行事が大高緑地にて行われた。当日、遠くは仙台、熊本や近くは名古屋、清州の武将隊や忍者集団、甲冑隊が大集合。ステージでは大武者行列の後、演舞、歌、トークショーまた、ブースエリアでのグルメ舌鼓…等で賑わった。



<大高歴史の会のあゆみ>

[令和7年(2025)10月～12月]

<例会> [第2・第4月曜日 9:30～12:00 例会(勉強会)を八幡社参集所で開催]

第350回 (10/13) ほだかの里だより第28号

P3～6 私の登校路

第351回 (10/27) P7 大高のできごとあれこれ(平成29年10～12月)

P8～9 大高の古文書 第7回 氷上宮太々御神楽目録帳

P10 大高歴史の会のあゆみ(平成29年10～12月)

第352回 (11/10) ガイド勉強会第4回 緑区の魅力発見「大高斎山を歩く」

ほだかの里だより第28号

P11 大高の歴史的石造物を訪ねて[第27回]大高領主志水家墓碑－その2

P12 史跡説明板の紹介 第8回「鷺津砦跡」

第353回 (11/24) 大高南小学校PTAへの説明資料の勉強会 「大高の3つの魅力」

第354回 (12/8) 大高村の地名勉強会

第354回 (12/22) 大高史料館年末大掃除、DVD鑑賞

<その他の活動> [会のあれこれ情報]

「会報第59号(令和7年秋号)発行」(10月8日)

約730部、印刷、於 緑区社会福祉協議会 丁合は10月13日の例会にて実施

「ほだかの里だより59号をWEB公開」

会報「ほだかの里だより59号」が大高地域観光推進協議会のホームページ表紙のニュース/イベント情報の中に掲載されました。これで50号～59号がWEB公開されています。

「石神白龍社案内板修復」(11月16日)

まちかど案内板本体が白蟻により倒壊していたが杉江会員手配の「庭園」さんにて修復が完了し
11月22日の大高学区ふれあいウォーキングにて参加者の皆様に披露されました。

<ガイド実績> 史跡・町並み散策ガイド依頼受付窓口： 深谷篤 090-8952-8610

10月5日(日) 5名 大高祭り見学ツアー (深)

10月16日(木) 16名 「大高斎山を歩く」 (深)

11月9日(日) 31名 「大高城跡と酒蔵見学」 (深)

11月13日(木) 11名 もっともっとまちたいけん大高城跡I (深、初、浜島鐘、杉江))

11月22日(土) 25名 大高学区ふれあいウォーキング (深、初)

11月27日(木) 28名 大高戦国城下町を歩く (深、初)

11月28日(金) 13名 もっともっとまちたいけん大高城跡II (深、初、上、林田)

12月20日(土) 23名 親子で発見～「大高の歴史たんけん」(深、上)

ガイド実績 (10～12月) 8件 152名

大高の行事予定 (2026年1月～2026年4月)

12月31日(水)～1月1日(木) 各寺社越年行事、

1月12日(月) 10時～成人式 大高3区合同、大高中学校

1月14日(水) 6:00～10:00 どんど焼き(左義長) 八幡社、田中神明社

2月22日(日) 10:00～ 酒蔵開き、散策会

3月1日(日) 長寿寺高蔵坊稻荷大祭、

3月14日(土) 春江院弁財天大祭

3月29日(日) 14:00～ 太々神楽 氷上姉子神社

大高の伝統行事 第5回 「太々神楽」

山口初宏

大高には古くから行われている数々の伝統行事がある。その中から代表的なものを謂れや内容とともに順次、紹介する。

第5回は太々神楽である

【概要】

太々神楽とは江戸時代の熱田宮で行われていた神楽の一つで始まりは正徳2年（1712）である。大高で太々神楽が始まったのは天保2年（1831）と伝わる。五穀豊穣を願い楽人と男役の舞人は熱田神楽笠寺保存会が奉仕し、神子役は熱田神宮の巫女が担当する



期日 每年3月の最終日曜日
本年は3月29日 開催予定
場所 氷上姫子神社
所在地 大高町字火上山

【太々神楽の内容】

神事は午後2時から始められる。神子が拝殿手前の神楽の席。また、拝殿内の席に大高町の太々講の役員が着き、祭主の祝詞奏上後に太々神楽が行われる。氷上姫子神社の太々神楽は現在下記の計7演目を行っている。

1. 式正 神子（巫女）二人による舞
2. 神がかり 男の一人舞
3. かずらの舞 男と神子による二人舞
4. 矛の舞 男の一人舞
5. ほそめの舞 男と神子の二人舞
6. 笑楽 男の一人舞
7. 式正 神子（巫女）二人による舞

太々神楽の演目「式正」の様子を下記に示す。



神子（巫女）二人による舞

右手に鈴を持ち。その房を左手に捧げる。その後は所定の手順にて神楽を舞う。

全部で七曲が行われるが15分位で終了する。太々神楽の行事が終わると郷内各組の役員に太々神楽大麻（お札）が渡され周辺地域に配られる。これは古より雷除けに効力があるといわれている。

<参考文献>発行 太々講 パンフレット

大高の歴史を学び伝える

大高歴史の会 会報 第60号 2026年1月

[平成21年(2009)4月発足]

連絡先（代表）：山口 初宏

〒459-8001

名古屋市緑区大高町字天神44

052-623-2307

散策関係 担当：深谷 篤

090-8952-8610

会報は年4回発行の予定です。

（冬1月、春4月、夏7月、秋10月）

会報バックナンバーご希望の方は上記連絡先へお問い合わせ願います